

分科会案内

6/9 (土) 9:15~16:30

6/10 (日) 9:15~11:15

分科会の検討資料は、季刊「保育問題研究254号」(新読書社)に記載されているものを使用しますので、必ず持参して下さい。当日も販売しますが、数に限りがあります。事前購入をご希望の場合は、各地の保問研または新読書社までお問い合わせ下さい。

1

乳児保育

政権が交代し、「子ども手当」の創設等、国民の生活再建に方向転換した政策が進められようとしています。しかし、今後の具体的な保育政策はまだ打ち出されていません。待機児童解消も遅々として進んでいません。共働き世帯の一般化により、乳幼児の入所希望は多く、定員の弾力化が恒常化していることもあり、乳児保育がますます求められています。

当分科会は長い歴史があり、その時代の必要性に応じて乳児保育のあり方を考えてきました。受け持ち人数をはじめ、乳児の生活と発達を保障する豊かな保育内容、乳児を取り巻く人間関係など、具体的な実践を通じて討論していきます。

運営委員 菱谷信子(福岡) 横井美保子(東京) 亀谷和史(愛知) 松田千都(京都)
野村朋(大阪) 吉岡万貴子(岡山) 中川伸子(広島) 西林正美(兵庫)
伊藤洋子(愛知)

2

集団づくり

いま、人権と民主主義が問われています。子どもたちを民主的な主権者として人間らしく育てていくために、発達年齢にふさわしく豊かな集団生活を保障していきたいと思えます。自治的、民主的集団をめざし、子どもたちの現実や集団の現状をふまえて、実践の道筋と手だてをどう考えたらよいのか、地域や家庭をも視野に含めた実践をどうつくりだすのか、また、保育者集団のあり方など、実践をもとに深めていきましょう。

運営委員 大元千種(佐賀) 木村和子(愛知) 池田かよ子(東京) 山田栄子(大阪)
脇 信明(大分) 中島常安(北海道) 古庄範子(熊本) 光本弥生(広島)
丹野広子(仙台) 谷口敦子(京都)

3

あそび

保育界では、あそびの重要性が再び主張されています。そして、あそびの実践も活発に報告されています。あらためて子どもは、あそびのなかでどのような自分を育てていくのか、仲間とどのように育ちあうのか、そのために保育者はどのようにあそびを組織し、発展させていってほしいのかこうした検討がいま私たち求められています。それはあそびの内容によっても、年齢によっても異なります。栽培や飼育活動を含めた各地の実践をもとに「地域の自分の園のこともあったら」と思いを描きながら検討しましょう。

運営委員 亀谷純雄(東京) 木都老克彦(神奈川) 岡村由紀子(静岡) 河崎道夫(三重)
勅使千鶴(愛知) 川内良子(福岡) 宮城千鶴(大阪) 三浦和恵(仙台)
加用文男(京都)

4-a

身体づくり
運動

「身体づくり」は単に体を鍛えることではありません。「身体」とは「中身のある体」であり、「身体づくり」とは、人格のありようを含めてのからだの形成をしていくことです。この分科会は、運動を通じて、どのような身体を、どのように育てていくのかを、子どもの最善の利益という視点に立って明らかにしていくことです。今なぜ、その運動なのか、その教材を通してどのような認識や感情、価値観を育てるのかなど、乳幼児期の発達に即して丁寧に考えていきましょう。

運営委員 塩田桃子(大阪) 雨宮みち子(北埼玉) 横井喜彦(東京) 上月智晴(京都)
福井英二(福岡)

4-b

身体づくり
食

「食」は生命を守り維持し、成長を保障する基本です。健康な身体は発達の基礎です。昨年の集会上に引き続いて学童期まで見通した「食」を考えましょう。

また父母や子どもたちの現状を支える新たな視点で実践を語り合ひましょう。各地の給食センター・委託化についても交流し、健康な子どもを育てるために何が必要な力なのかを共に考え合ひましょう。

運営委員 大下二三子(滋賀) 小西律子(兵庫) 長谷部幸子(北海道) 三上かおる(大阪)
柴美喜子(京都)

5-d

認識と表現
科学

「科学」分科会は長年の成果を保問研シリーズ『確かな感性と認識を育てる保育』として出版しました。今日の社会にあって「科学的なものの考え方」を身につけずには生きていけません。子どもたちに「自然科学」への関心をもたせるには、どんな環境と方法が乳幼児期に必要なのかそして「科学に強い保育者の養成」についてさらに議論を重ねましょう。山形集会では、原発の放射線被曝から子どもを守る各地の実践を広島へ持ち寄ろうと決めました。生命を育む根本が問われている私たちです。

運営委員 鈴木牧夫(東京) 清原みさ子(愛知) 富田昌平(岡山) 藤井 修(京都)

6

保育計画

保育計画作成は、保育全般にかかわり、なおかつ基底となる作業といえるでしょう。保育実践の根底にある子ども像、保育目標を目の前の子どもたちの姿と家庭・地域の状況をふまえて検討し、職員間・保護者も含めて合意形成する必要があります。

「保育所保育指針」告示化され3年経過し、長年保育計画について議論を積み上げてきたこの分科会で、計画作成だけでなく活用の仕方、職員集団づくり、保育記録、自己評価、保育要録など幅広い議論をしていきましょう。

運営委員 渡邊保博(静岡) 林若子(南埼玉) 山本理絵(愛知) 合田史宣(愛媛)
早瀬真喜子(大阪) 荒堀育子(京都)

7

保育時間と
保育内容

子育てを始めた父母の労働や生活の大変さと多様さのなかで、保育時間は長くなり、日曜日や祝日も保育を実施する園が増えています。本分科会では、父母のそうした労働実態、生活実態と、そこで一緒に暮らし、育つ子どものことを考え合い、努力したこと、工夫したこと、悩んだことなどを出し合っ

て学んできました。それは、保育園とは何か、という話し合いでもありました。そのような状況を見つめながら、どのような日課や保育内容を作っていったらよいか、子どもとはもちろん、父母とどのようにわかり合っ

ていったらよいか、保育者の労働条件をどうしていったらよいかなど、たくさんある課題をみんなで考えたいと思います。

運営委員 清水民子(京都) 清水玲子(東京) 河本ふじ江(愛知) 横井洋子(北海道)

8

保育政策と
保育運動

政府が進めようとしている、子ども・子育て新システムでは直接契約や直接補助方式が導入され、保育時間がバラバラにされるなど、子ども達の発達保障をないがしろにした保育・子育て環境となり、ビジネスとしての保育の市場化が進むことになると危惧されています。

また、多くの自治体では公立保育所の民営化が安上がり行政施策の目的で進められていますが、民営化反対の取り組みは公的保育制度を守るためとして、国や自治体に対する保育政策や子育て支援政策づくりを求める運動としても重要になってきています。規制緩和や自治体レベルでの最低基準の見直しが進められる中、各地域の状況や取り組みを交流し、私たちが今後どのような様な保育・子育て制度や環境を政策として掲げていくのか、一緒に考え、議論していきたいと思ひます。

運営委員 近藤進(京都) 中村強士(愛知) 大宮勇雄(東京) 杉山隆一(大阪)

9

障害児保育

障がいを持った子どもなど、保育において特別な支援を必要とする子どもたちへの関心が高まっています。支援が必要な子どもへの保育に取り組むことは、クラスの子どもの全体の保育を見直し、職員集団や保護者との協力連携関係を構築していくことにつながります。それは、どの子どもも発達し保育に参加することを保障するインクルーシブな保育を実現することであり、保育の原点を再発見することです。これまでの障害児保育の優れた実践をもとに蓄積された理論を土台にしながら、この時代に必要な実践を創造していきましょう。

運営委員 田中良三(愛知) 野本千明(滋賀) 浜谷直人(東京) 河合隆平(石川)
田中洋(大分) 杉山弘子(仙台) 上地玲子(岡山) 田中浩司(広島) 落合操(愛媛)

5-a

認識と表現
文学

これまで提案され、話し合ってきた実践は多岐にわたっています。絵本の読み聞かせ・お話作り・劇あそび・劇づくり・紙芝居などの活動、教材としての絵本の分析、父母・地域とかがわる図文庫のとりくみ、今日の子どもの文化を考えるなど、多様な実践に迫る共通の視点として表現活動をくぐって認識を深め、子どもたちの生活をつくること、子どもたちの集団づくりとかがわらせて文学の実践を深めることが認識されています。

運営委員 西川由紀子(京都) 田代康子(東京) 山崎由紀子(大阪) 徳永満理(兵庫)

5-b

認識と表現
美術

子どもの絵のとらえ方や見方、指導のあり方について古くから保問研の中にも多様な考え方や実践があります。毎年の分科会では、こうした積み重ねを丁寧に認識しあうと同時に、様々な実践の違う点も、結論を急がずじっくり実践の事実を丁寧に話し合う中で相互理解を深めていけたらと思います。そこから見えてくるものを大切にしたいと考えています。

運営委員 伊藤正雄(東京) 田中義和(愛知) 脇志津子(京都) 板井理(大阪)
平沼博将(広島)

5-c

認識と表現
音楽

「音楽」は、子どもの育ち、人間形成にどんな役割を果たすのか、「音楽」が人間らしく、子どもたちの自由で伸びやかに楽しく、生きる力になるためには、乳幼児期の音楽教育はどうあったらよいのだろうか。音楽教育では認識とは何であるのか。子どもの発達を保障する・促す教材を、発達段階にそってどう選択していけばよいかなどを考えていきたいと思っています。

運営委員 山並道枝(熊本) 藤波陽子(栃木) 丸山亜季(群馬) 安藤正彦(京都)
坂手佳子(大阪) 高橋陽子(北埼玉)

10

父母と共に
つくる
保育内容

人間らしく生きる力を生活の場での保育は、昨今の状況から見ても「父母と共に」を抜きに語れませんが、毎回、父母・保育者それぞれの立場から、お互いに手をたづさえての思いから出発した様々な実践が報告されています。

父母と保育者との信頼関係をつくる・父母たちの保育参加を広げる・地域に根ざした共同の子育てを進める・父母と保育者が協力して新しい保育を創造するなどが討議されます。

運営委員 穴戸健夫(愛知) 長瀬弥生(大阪) 成富清美(福岡) 細見玲美(京都)

11

乳幼児期の
平和教育

平和的人間の形成は現代の教育の原点であり、人類的課題といえるものです。乳幼児期から子どもの心の中に平和のとりでを築く平和教育の営みは、平和な将来の社会を保障する重要な条件であり、最も確実な道といえます。平和とは、単に戦争が無い状態だけでなく、戦争を生み出す元となる飢餓、貧困、差別、失業、虐待などの無い、人権が守られている状態を指すものです。保育現場で、生きづらさを抱えている子どもたち、親たちに向き合い日々取り組んでいる、そのことが平和教育につながるものです。愛されているという安心感や自己肯定感を育てることも仲間と話し合う力を培うことも平和の心を育む実践といえます。平和教育は決して「敷居が高い」ものではありません。日常の保育をあらためて平和教育の視点でとらえ直してみることから始めていきましょう。

運営委員 小川富士枝(静岡) 石川秀子(広島) 黒川久美(鹿児島) 船越美穂(福岡)
ウィンフィールドひろみ(沖縄)

12

地域に
開かれた
保育活動

保育園・幼稚園の保育が親に信頼され、子どもたちがしっかりと育っていることを土台に、地域の子どもたちもしっかり育ってほしいと願い、地域開放、体験保育など色々な子育て支援の取組が広がっています。しかし、気になる親子への対応が大きな課題になっています。

親子の背景にある生活の重さや、親の未熟さなど保育園だけで抱えきれない問題も増えています。行政や専門機関との連携、民生児童委員など地域の住民組織との連携を日頃から視野に入れた取組が必要です。事例をもとに交流を深め、子育て支援をする今日的意義を共に考えましょう。

運営委員 水野恵子(東京) 加藤哲雄(愛知) 野々上明宏(大阪) 望月彰(愛知) 松浦崇(兵庫)

特別講座

6 9 (土) 17:00~18:30

A 『はらぺこ あおむし』

定員60名 ※材料費100円(実費)

ペーパーシアターと作ってあそぼう

たね工房(中原久美子)・広島保問研絵画部会

B 「今」この歌をうたう

～生命の木、空へ～

講演と実技

広島音楽教育の会

C うちの保育園にアオギリがある理由

～木が教えてくれた ヒロシマ～

講演

大島波枝・山下慶子(広島保問研)

D ヒロシマからフクシマを考える

～放射能被害について～

講演

広島県原水協・高橋信雄(広島教育研究所)

E 広島保問研が追究してきたもの

～乳児期からの集団づくりにこだわって

講演

石川幸枝(広島保問研)

F やまねこ母さんが花巻弁で語る宮澤賢治のこころ

～大型紙芝居『どんぐりと山猫』～
故郷(イーハトーブ)で共有できた私の思い

講演

吉田路子(切り絵作家 宮澤賢治童話や詩の語り部)

G 歴史的景観・海運がもたらした育んだ文化財の宝庫“鞆の浦”

～自然環境と歴史遺産が醸す空気に包まれる暮らし実感できる町～

講演

高橋善信(鞆の自然と環境を守る会事務局長)

H 保育政策検討委員会企画 新システムの解明と保育園・幼稚園のゆくえ シンポジウム

～貧困・格差の社会のなかで～

コーディネーター：杉山隆一(大阪保問研)
発言者：保育所保育士、保育所調理員(OR栄養士)、幼稚園教諭

I 東日本大震災復興支援企画 大震災の支援活動から見えてきたこと シンポジウム

企画：東京保問研・京都保問研

J 50周年記念企画委員会企画 集会50周年記念プロジェクト～あの頃の保問研～ シンポジウム

草創期の足跡から：穴戸健夫(愛知保問研)
保育問題は女性解放の問題；乳児保育の歩みと母性神話からの脱却：清水民子(京都保問研)
保育は伝え合い；集団保育の意義をみつめて：藤村美津(東京保問研)
保育実践を科学する；実践記録と保育創造：渡邊保博(静岡保問研)